

2015年10月5日

「株主・投資家との信頼関係の構築」を継続

中・長期的な企業価値向上について資本効率を意識して説明する企業が増加

— I R 優良企業賞 2015 応募企業の調査結果より —

一般社団法人 日本IR協議会（会長：隅 修三 東京海上ホールディングス株式会社 取締役会長）は現在、IR優良企業賞2015の審査を進めています。今年は、日本IR協議会の会員企業のうち263社がIR優良企業賞2015に応募しました。

本リリースは、応募企業263社のアンケート調査の集計結果を参考までにご報告するものです。IR優良企業賞は、IRの趣旨を深く理解し、積極的に取り組んでいる企業を表彰するもので、3段階の審査を経て決定します。最終審査の結果は、11月中旬に発表する予定です。

【調査結果の概要】

（1）IRの目標に、株主・投資家との信頼関係構築を挙げる企業が増加

—建設的な対話によってお互いの立場を理解し、企業価値を高めるIRを実行しようという姿勢の表れ
応募企業263社のうち、「IRの目標を設定し、明文化している」のは245社（93.2%）だった。多くの企業が、具体的なIRの目標として「企業・事業内容の理解促進」や「経営戦略・経営理念の伝達」を選択しているのは昨年と変わらないが、今回の調査では「株主・投資家との信頼関係の構築」を挙げる企業が引き続き増加（86.0%→91.0%）した。

（2）経営層がIR活動に参加する企業が増加

—社長（CEO）、CFOまたはIR担当役員が国内外のアナリスト、機関投資家に説明する機会が増加
国内での個人投資家向け説明会において、「社長（CEO）」（30.0%）が出席する機会はわずかながら減少したが、「CFOまたはIR担当役員」（38.0%）の割合は前回から5ポイント上昇した。他方、国内でのアナリスト・投資家との面談（海外機関投資家の訪日対応と日本拠点訪問を含む）については、「社長（CEO）」が78.7%と前年比約7ポイント上昇。「CFOまたはIR担当役員」も88.6%と同5ポイント上昇した。

（3）中長期的企業価値向上に向けて、資本効率を意識して説明する企業が増加

コーポレートガバナンス・コードや日本版スチュワードシップ・コードの対応の一環で、中・長期的な企業価値向上について、資本効率を意識して説明する企業が広がった。

（4）中長期志向の株主を発掘するIRを模索

個人投資家向け説明会を開催する企業はほぼ横ばいとなった。一方で、ウェブサイトでの情報発信については、タブレット端末やスマートフォンへの対応を行うなど若年層を意識し工夫する企業が増えた。中長期的な視点で、投資する株主層を拡大するための活動も進んでいる。

本件に関するお問い合わせ

一般社団法人 日本IR協議会

電話：03-5259-2676 FAX：03-5259-2677

担当：首席研究員 佐藤淑子、首席研究員 佐藤進一郎、首席研究員 篠原哲郎、首席研究員 佐久間庄一

*日本IR協議会とは：1993年設立。IRの普及を目的とする非営利団体。2014年9月17日現在の会員数は555で、研修活動、情報発信活動などを行っている。2010年4月1日より一般社団法人へ移行。

URL：<https://www.jira.or.jp/>